

鶴居村におけるトラフズクの繁殖記録

田島奏一郎[※]

Breeding record of Long-eared owl in Tsurui village

Soichiro TASHIMA[※]

はじめに

トラフズク *Asio otus* は、ユーラシア大陸、北アメリカ大陸の温帯から亜寒帯で繁殖し、寒冷地で繁殖するものは南下して越冬する(中村・中村 1995)。日本では本州中部から北海道にかけて局地的に繁殖し、冬は、積雪が多くなると雪の少ない地方に移動する(中村・中村 1995)。夜行性で、ネズミ類、食虫類、小鳥類を捕食し、不消化物をペレットとして吐き出す習性がある(中村・中村 1995)。トラフズクの北海道における繁殖状況については千歳市、帯広市、旭川市、中標津町などで記録されている(河井ほか 2003)が、道東については不明である(先崎ほか 2019)。

本稿では2019年6月末～7月上旬、2020年5月末～7月上旬に釧路管内の鶴居村において鳴き声による本種の繁殖を確認したので、その結果を時系列に以下に報告する(村内在住者の情報も含む)。また、生息地の特定を防ぐため、地名等の詳細な情報の記載は控えた。

調査地及び確認方法

調査地の北海道阿寒郡鶴居村は、釧路管内のほぼ中央部に位置し、東部は標茶町に接し、南部は釧路湿原国立公園の一部に指定されている。久著呂、雪裡、幌呂の3原野をもって構成され、雪裡川や幌呂川など多数の河川がある。流域はいずれも農耕適地であり、広面積の牧草地が広がる環境である。調査は夜間の聞き取り及び目視、撮影により4～7月上旬にかけて確認を行った。なお、幼鳥の鳴き声については、認定NPO法人 バードリサーチの鳴き声図鑑(web音源)や(公財)日本野鳥の会CD鳴き声ガイド日本の野鳥を参考にした。

観察結果

2019年は2地点、2020年は4地点での繁殖を確認し、うち全ての地点で幼鳥の鳴き声を確認した。

2019年

A 確認場所: 下幌呂地区 針葉樹林
6月30日に確認した。

6月30日

確認時刻: 20:15

幼鳥2羽(鳴き声&目視により確認)

2羽が針葉樹林内にて「キー」というもの悲しげな鳴き声(以下 幼鳥の鳴き声はすべて同様)で鳴いており、その後2羽の飛翔を確認。

B 確認場所: 鶴居市街(A確認場所より北約15kmに位置する)

6月30日から8月22日にかけて確認。

6月30日

確認時刻: 22:00~22:30

成鳥1羽、幼鳥3羽以上(鳴き声&目視により確認)「キー」という鳴き声3羽以上確認。時折「クー」「ウーウー」と鳴く1羽を目視で確認。幼鳥と思われる3羽とは離れた距離を保っていた。幼鳥とは明らかに鳴き声が異なり、参考音源を参照すると、成鳥と思われた。

7月1日

幼鳥の鳴き声(数不明)を確認。

7月4日

7羽(内訳不明)を鶴居在住の方が確認。

7月5日

幼鳥2羽の鳴き声を確認。

また村内・村外在住者が少なくとも成鳥1羽、幼鳥1羽を目視及び撮影にて確認(図1)。

7月7日

確認時刻: 23:40

幼鳥1羽の鳴き声、さらに同場所から600mほど南の針葉樹林内にて2羽の幼鳥の鳴き声を確認。

7月8日

幼鳥1羽を鶴居在住の方が目視により確認。

7月9日

幼鳥2羽の鳴き声を確認。さらに同場所から500m

※ 公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ Wild Bird Society of Japan Tsurui-Ito Tancho Sanctuary

南東方向にて幼鳥4羽の鳴き声を確認。

7月12日

確認時刻：20：04

B確認場所から400m南方向にて幼鳥2羽の鳴き声を確認。

8月22日

B確認場所から東方向に2km以内にて夜間に飛翔するトラフズク1羽(成鳥、幼鳥かは不明)を鶴居在住者が目視で確認。

2020年

C 確認場所：鶴居市街 針葉樹林内(2019年の鶴居市街のB確認場所より2km西方向)

5月28日から6月12日にかけて確認した。

5月28日

確認時刻：20：20～20：50

幼鳥3羽の鳴き声を確認。

30分間で、幼鳥の鳴く位置が変わることを確認した(飛翔能力あり)。

5月30日

確認時刻：20：50

幼鳥3羽の鳴き声確認。

6月1日

確認時刻：19：30

幼鳥1羽の鳴き声確認。

6月3日

確認時刻：21：14

C確認場所の針葉樹林内から約2km南東方向にて幼鳥2羽の鳴き声確認。

6月6日

確認時刻：21：13

C確認場所の針葉樹林内から約2km南東方向にて幼鳥2羽の鳴き声確認。

6月12日

C確認場所の針葉樹林内にて鶴居在住の方が成鳥1羽、幼鳥3羽を目視で確認。

D 確認場所：鶴居村中幌呂地区

4月20日頃から7月1日にかけて鶴居在住者が確認した。

4月20日

鶴居在住の方が20日前後日に、中幌呂市街でトラフズクラしき声を確認。

6月9日

鶴居在住の方が幼鳥1羽を目視と鳴き声で確認。

6月10日

鶴居在住の方が幼鳥(羽数不明)を鳴き声で確認。

6月12日

鶴居在住の方が幼鳥(羽数不明)を鳴き声で確認。

6月14日

鶴居在住の方が幼鳥(羽数不明)を鳴き声で確認。

6月21日

鶴居在住の方が幼鳥(羽数不明)を鳴き声で確認。

6月29日

鶴居在住の方が幼鳥(羽数不明)を鳴き声で確認。

7月1日

鶴居在住の方が少なくとも幼鳥4羽以上の鳴き声を確認。毎日のように鳴き声を聴いている。

E 確認場所：鶴居村内道道243号線沿いの針葉樹林内にて

7月6日に確認した。

7月6日

確認時刻：20：08

幼鳥1羽の鳴き声を確認。

F 確認場所：鶴居村内雪裡川沿いの河畔林にて
7月6日に確認した。

7月6日

確認時刻：20：19

幼鳥2羽の鳴き声を確認。

その他

鶴居村内において鶴居在住の方が7月9日、29日に幼鳥(羽数不明・場所不明)の鳴き声を確認。



図1 B確認場所にて撮影されたトラフズク成鳥(2019年7月5日撮影) 写真提供：久井 貴世

考察

黒沢(1995)及び鶴居村鳥類目録(音成 未発表)によると、今回の2年間における観察は鶴居村では初の繁殖記録となる。トラフズクの繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖し、針葉樹林や雑木林の中の大木の樹洞内や、カラス類、ワシタカ類やリスの古巣を利用する(中村・中村 1995)。北海道における2巣の例では、防風林の樹高約14mのニセアカシアの高さ約9mのところと、樹高約13mのポプラの高さ約7mのところとあり、いずれもカラスの古巣を利

用したものである(松岡 1974)。2年間で著者がトラフズクを確認した環境はいずれも針葉樹林を中心とする林内であった。いずれの地点においても巣の観察には至っていないが、鶴居市街の確認場所周辺ではカラスの古巣なども確認されている。また、確認場所は付近に河川が流れている農耕地の環境が多かったため、ネズミや鳥類など餌資源が豊富な場所であることと関連があるのかもしれない。

トラフズクの一巣卵数は4~6個、雌は2日おきに1日ずつ産卵する。雌雄共同で育雛し、雛は23~24日で巣立つ(中村・中村 1995)。

今回の記録を、上記をもとに幼鳥が飛翔により移動できるようになった観察日を巣立ちの時期と仮定すると、2019年度のA、B確認場所では抱卵(5月26日~30日頃)・育雛期間(~6月7日頃)となり、少なくとも5月下旬には繁殖を開始したものと考えられる。同様に2020年度のC確認場所では、5月28日に確認された日を巣立ち日と仮定すると抱卵(4月24日~4月28日頃)・育雛期間(~5月5日頃)となり、4月下旬には繁殖を開始したものと考えられる。2019年6月30日に鶴居市街で確認された幼鳥が7月12日まで確認された個体と同一であると仮定すると、少なくとも巣立ち後約2週間は長距離の移動をすることなく付近で過ごしているものと考えられる。2020年5月28日に鶴居市街で確認された幼鳥3羽についても、6月12日に同場所で確認されていることから同一個体である可能性が高い。また、6月3日、6日に聞かれた幼鳥2羽については、5月28日のC確認場所より2km離れた場所であるが、同一個体である可能性も考えられる。その後、7月6日にはさらに約7km離れた場所で幼鳥の鳴き声を確認された。同一個体であるかは不明であるが、移動した可能性も考えられる。D確認場所である鶴居村中幌呂地区では7月1日に4羽以上の幼鳥の鳴き声を確認されていることから、C確認場所とは異なる繁殖記録であると考えられる。今回の目撃事例だけでは幼鳥の移動経路について、成鳥の目撃数が少ないなど本種の生態については明らかにできていない部分も多いが、鶴居村内にはトラフズクの繁殖に適した環境が整っていると考えられる。また、著者は足寄町内においても2019年7月にトラフズクの幼鳥の鳴き声を確認している。よって、鶴居村に限らず近隣の他市町村でも繁殖している可能性が考えられる。そのため、今後は同様の調査を広域的に行うことで、道東の繁殖状況を把握していくことが、本種の生息状況や生態を理解する上で重要であると考えられる。

謝辞

本稿をまとめるにあたり、釧路市立博物館の貞國利夫氏にはご指導とご助言をいただいた。鶴居村教育委員会の音成邦仁氏、NPO法人トラストサルン釧路代表の黒澤信道氏、鶴居村在住の松木護氏、尾上寿紀氏にはトラフズクの生息情報を提供していただいた。また、北海道大学 大学院文学研究院 博物館学研究室の久井貴世氏には写真を提供していただいた。ここに深く謝意を表す。

引用文献

- 河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳. 2003. 北海道野鳥図鑑, p6. 亜細亜社, 札幌市.
- 黒澤信道. 1995. 鶴居村の鳥類リスト第3版. 鶴居村の鳥類リスト第3版, 鶴居村.
- 先崎理之・梅垣佑介・小田谷嘉弥・先崎啓啓・高木慎介・西沢文吾・原星一. 2019. 日本の渡り鳥観察ガイド, p93. 文一総合出版, 東京.
- 中村登流・中村雅彦. 1995. 原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>. 保育社, 大阪.
- バードリサーチ鳴き声図鑑 (online), <https://db3.bird-research.jp/saezuri/birdsong/detail/45>, accessed 2021-02-12.
- 松岡茂. 1974. 北海道における繁殖期のトラフズク *Asio otus* の食性について—ベリットの分析. 山階鳥研報. 7 (3): 324-329.
- 松田道生. 2016. CD鳴き声ガイド日本の野鳥. 日本野鳥の会, 東京.
- 山口孝. 2011. 東京都青梅市におけるアオバズク *Ninox scutulata* の生息及び繁殖状況. Strix. 27: 129-133.